

〈研究ノート〉

栄養教諭免許取得希望者の状況と課題

The Current Situation and the Issues of the Applicants
for the License to be a Nutritive Teacher

稲田 克二¹

要旨

管理栄養士の養成を目的とする食物栄養学科で、栄養教諭免許の取得をめざす学生の現況や意識を調査し、その課題を検証した。

キーワード：栄養教諭, 食育, 教職科目, 管理栄養士
nutritive teacher, dietary education, teaching subject,
registered dietitian

はじめに

本学食物栄養学科では、栄養教諭一種免許を取得させるために必要な教職科目が開設されている。筆者はそのうち、3年生の前期に配当されている「生徒指導」と、同じく後期に配当されている「教育の方法と技術」を担当している。そのため、3年生で栄養教諭免許取得を希望する学生に対して、1年間を通して緊密に指導することができており、受講生の考え方や意識等についても詳細に把握することが可能となっている。

そこで本稿では、管理栄養士養成を第一義とする学科において、栄養教諭一種免許取得を希望する学生が、どのような意識や将来の展望を持って栄養教諭免許の取得を希望しているのか、また管理栄養士とは職種や活動が大きく異なる、学校で食育を行う栄養教諭という教育職に対して、どのような考えや認識を持っているのかなどを調査・分析し、今後の教職科目「生徒指導」「教育の方法と技術」の指導方法やあり方を探求することを研究の目的とした。

1. 栄養教諭養成課程の状況に関する研究

栄養教諭養成課程の設置状況や教学に関する最近の研究では、山岸¹⁾や大橋²⁾が短期大学生における意識調査を、中島他³⁾や橋本他⁴⁾が栄養教諭

養成課程の状況と課題を、藪田他⁵⁾が栄養教諭養成課程に関連する各教科の実践報告を、長尾他⁶⁾が栄養教諭養成のための教職実践演習について、並河⁷⁾・上田他⁸⁾・上村他⁹⁾が栄養教育実習について、田中他¹⁰⁾が栄養教諭養成課程における情報機器の活用について、それぞれ研究をすすめている。

これらの研究のうちの、大学での栄養教諭養成に関する研究は並河他、上田他の研究だけであり、それ以外の多くの研究は、短期大学における栄養教諭養成に関するものとなっている。

これは2005年に栄養教諭養成制度が創設され、従来は栄養士免許しか取得できなかった短期大学でも、栄養教諭二種免許が取得可能になったことにより、食物栄養学科などを設置している短期大学で教職課程が作られ、栄養教諭の養成が開始されたため、栄養教諭養成に関する研究が多くなされたのであると考えられる。

2. 本学食物栄養学科における栄養教諭免許取得希望者の状況

本学の食物栄養学科の各学年の定員は80人であるが、そのうち3年生の段階での栄養教諭免許取得希望者は、筆者が教職科目である「生徒指導」「教育の方法と技術」を担当し始めた2013年は9人、2014年は9人、2015年は3人、2016年は6人、2017年は9人となっており、食物栄養学科在籍者

1 Katsuji INADA 千里金蘭大学 生活科学部 食物栄養学科

受理日：2017年9月8日

数から見れば全体の1割程度で、少数となっている。しかし、これらの栄養教諭免許取得希望者は、他の学生よりも専門分野が大きく異なる教職に関する科目を多数履修・修得しなければならないため、負担が大きくなっているにもかかわらず、敢えて教職に関する科目を選択しているため、授業に臨む意欲や意識は高く、また授業態度も非常に良好で、真摯に積極的に取り組んでいる。

その結果2014年の受講生の中からは、自治体の教育委員会が実施する栄養教諭採用試験を受験し、1次試験に合格した者や、2015年の受講生からは、期限付き講師として、小学校の栄養教諭として就職した学生が出てきている。また本年度筆者が担当している教職科目である「生徒指導」「教育の方法と技術」の受講生の中に、将来の職業としてぜひとも栄養教諭になりたく、栄養教諭を就職先の第1志望とする学生が在籍している。

ただし、栄養教諭を将来の職業とするためには、4年生になった段階で各自治体の教育委員会が7~8月に実施する教員採用試験の受験準備、及び6月に実施される小学校での教育実習と、本学科の第一義の教育目標である管理栄養士の国家試験に合格するための準備を並行して行わなければならないため、学生にとっては非常に大きな負担になるので、最終的には教育実習と管理栄養士の国家試験に合格することを優先し、教員採用試験の受験を断念する場合が多くなっている。

このように4年生については教員採用試験と管理栄養士の国家試験と言う非常に厳しい二者択一の選択を迫られるが、3年生の段階ではまだ差し迫った状況ではないので、栄養教諭に関して純粋な感覚を持っており、受講生たちの率直な意識や意欲を調べることが可能であると考えられる。

3. 教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）を受講する前の学生の状況

3年生になって、教職に関する科目を受講するにあたって、栄養教諭免許を取得する理由や、学校教育に関する興味・関心、教師に関してのイメージや、第1志望の職業や職種などについて、前期に開講している「生徒指導」の第1回目の授業時に、下記に示した質問項目による記述式のアンケートを取っている。

質問項目としては

①「あなたがこの科目を選択した理由は何です

か？」

- ②「あなたは学校教育に、どのような興味や関心、疑問を持っていますか？」
- ③「あなたは小学校や中学校の教師という職業にどのような興味や関心、イメージを持っていますか？」
- ④「あなたは小学校や中学校の教師になりたいと思っていますか？ になりたいと思っている人はその理由を述べてください」
- ⑤「あなたの第一希望の職種・就職先は何ですか？」以上の5項目である。

ここでは、2016年に実施したアンケートの分析を通して、3年生が学年始めに栄養教諭や学校教育に関してどのような意識やイメージを持っているのか、あるいは将来の職業についてどのように考えているのかについて検討を加えた。なおこの年度の受講生数は前述したように6人であった。

①「あなたがこの科目を選択した理由は何ですか？」

に関しては、当然であるが、「栄養教諭の免許を取るため」と全員が述べているが、その中に「小学校のとき、給食のことを教えてもらった先生に憧れたから」、「学校給食の仕事に就きたかったので」と栄養教諭免許取得の理由を具体的に述べている学生がおり、小学校での栄養教諭の活動に刺激を受け、栄養教諭を目指す学生がいることを示している。

②「あなたは学校教育に、どのような興味や関心、疑問を持っていますか？」

に関しては、「授業の仕方やどのように話したらよいのかに興味がある」「栄養教諭の先生を見て、興味を持った。私たちが食べることに意味があると教わったことが良かった」「子どもたちに教えるやりがいということに興味がある」と述べている学生があり、栄養教育を通じて教育活動に参画し、教育職に関心を持っている学生がいることを示している。

③「あなたは小学校や中学校の教師という職業にどのような興味や関心、イメージを持っていますか？」

に関しては、「中学校では、受験が絡んでくる時期だから大変と言うイメージが強い」「小学校の先生は優しく、でもちゃんと叱ってくれるイメージ

がある」「良い先生や嫌な先生など色々な先生がいたが、生徒と仲の良い先生に関心がある」「小学校の先生は、毎日ばたばたして忙しいイメージです。でも生徒とかかわっているときは、いつも楽しそうな印象がある」「色々な性格の子どもがいて、大変そう。振り回されているイメージ」

と答えており、生徒として身近な教師に対して感じたことを率直に述べている。

当然のことではあるが、1,2年次で教育に関する種々の概論の授業は受けているが、3年生の学年初めの段階では、学校現場での教育活動や教師に関しての具体的な考えやイメージはまだ十分に形成されていないと考えられる。

④「あなたは小学校や中学校の教師になりたいですか？ になりたいと思っている人はその理由を述べてください」

これに対しては、「なれるなら、小学校の教師が良い。生徒に栄養について知って欲しいから」「小学校のときの栄養教諭がとても良い先生で、興味をもったため」「今は進路の一つとして考えている程度で、何となくしか考えていない」と述べており、小学校で良好な栄養教育を受けた学生は、その経験を自らも行いたいと考え、小学校での食育活動を希望しており、小学校での栄養教育の効果がある程度あった事を示している。

ただし、ぜひとも教師になりたいと考える学生はおらず、ほとんどの学生は、なれたらいいと考えている程度である。これは3年生の初めの段階では、まだ就職活動も行っておらず、就職そのものについての意識や意欲も明確に形成されていないので、当然のこととも考えられる。

⑤「あなたの第1希望の職種・就職先は何ですか？」

については、「保育園での栄養士」「保健所」「老人ホームでの栄養士」「幼稚園での栄養士」「栄養教諭はむずかしいので、小学校などで子どもにかかわる仕事」「学校給食にかかわる仕事」「スポーツ栄養関係の仕事」と答えており、栄養教諭を第1志望としている学生はいないが、教職科目を取って選択した学生らしく、多くの学生は何らかの形で子どもに関わりをもち、食育活動を行いたいと考えている。

このように3年生の学年初めでは、栄養教諭として小学校で食育を行うということに関しての具体的なイメージや感覚はまだ明確になっておらず、

漠然と栄養教諭になり食育活動をしたいと考え、栄養教諭免許の取得を目指しているものと考えられる。

これは、栄養教諭免許取得のため1、2年生で履修している教職に関する科目が、「教職概論」「教育原理」「教育心理学」「教育制度論」などの、教育全般にかかわる科目であり、食育に特化した科目を履修していないため、栄養教諭がどのような活動をしているのか、食育活動がどのように行われているのかなど、栄養教諭の教育活動の詳細がまだ具体的に理解できていないためであると考えられる。

このため、筆者は授業において、現在の学校や児童・生徒の状況を明確に把握し、それらを踏まえた食育活動ができるよう、前期の「生徒指導」においては、いじめや不登校、学級崩壊、発達障害などの、学校で発生している具体的な事例をできるだけ多く示しながら、学校の日々の教育活動や学級運営、児童・生徒の個別指導や保護者対応、地域との連携など、学校や教師の活動について具体的かつ詳細に説明を行っている。

また後期の「教育の方法と技術」においては、授業を行うときの話し方、声の出し方、言葉づかい、話すスピードや、資料の作成・提示方法、板書の方法、教材開発の方法、学習指導案の作成方法などの、日々の教師の教科指導の方法や技術を提示し、その後模擬授業演習を行い、具体的に教室でどのようにして授業を行うかという実践演習に時間をかけ指導している。

このようにして、3年生の1年間を通して、具体的に児童・生徒の学習指導方法や生活指導方法、保護者対応など学校における実務的・技術的訓練を行い実践的な力量を育成することとしている。

また教室での食育授業のほか、栄養教諭の重要な職務である、給食調理業務、給食献立の立案などの業務についても、随時説明を行っている。

これらにより、今まであまり明確に把握できていなかった、教室で食育を行う方法や技術を身につけ、また教室での食育授業以外の種々の栄養教諭の業務などについても理解を深めることができようになり、栄養教諭の職に関して、明確で具体的なイメージが形成されていくように配慮している。

このようにして、3年生の1年間で学校教育に関して具体的な認識を持たせ、栄養教諭としての実務的・技術的訓練を行い、4年生で行われる栄

養教育実習に結び付けられるようにしている。

そして、3年生の最後に改めて、栄養教諭免許を取得することについての、意識や意欲を調査している。

4. 教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）を受講後の意識調査

ここでは、3年生の1年間、栄養教諭免許取得のための実務的・技術的な視点に力を入れた授業を受講した後の、学生たちの栄養教諭に対する意識や考え方を調査してみた。

調査方法は2016年度前期に実施した「生徒指導」と同後期に実施した「教育の方法と技術」を受講した6名に対し、2017年3月に以下のアンケートを送付し、改めて栄養教諭免許取得に関する以下の7項目について、その意識などを調査した。なお、調査項目については山岸¹¹⁾を参考とした。

- ① 栄養教諭の免許があることを、いつ知りましたか？
- ② 栄養教諭免許があることをどのようにして知りましたか？
- ③ 栄養教諭免許を取りたいと思ったのはいつごろですか？
- ④ 栄養教諭免許を取ろうとした理由は何ですか？
- ⑤ 1年間、教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）を受講して、栄養教諭になりたいという思いはどれくらいでしたか？
- ⑥ ⑤の質問で、「免許だけ取得できればよい」「なりたいとはほとんど思わない」と答えた人、その理由は何ですか？
- ⑦ 1年間、教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）を受講して、栄養教諭になるには、どのような能力や資質が必要とと思いましたか？
- ⑧ 1年間、教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）を受けてみて、学校教育に関して、特に深く理解できたことは何ですか？

以上の8項目である。なお得られた回答数は5名であった。

5. 回答の結果と分析

回答の結果は、表1にまとめたが、ここでは各項目についての回答とそれに対して分析を加える。

表一 1 教職に関する科目（「生徒指導」「教育の方法と技術」）受講後の意識調査

1. 栄養教諭免許があることを、いつ知りましたか

中学	0
高校1年	0
高校2年	1
高校3年	2
大学入学後	2
その他	0

2. 栄養教諭免許があることを、どのようにして知りましたか

中学・高校の先生から聞いた	0
ネットで調べた	2
進学説明会などで聞いた	1
大学のパンフレットで知った	0
テレビ・新聞などで知った	0
大学入学後のガイダンスで聞いた	2
保護者などから聞いた	0
その他	0

3. 栄養教諭免許を取りたいと思ったのはいつごろですか

中学	0
高校1年	0
高校2年	0
高校3年	0
大学入学後	5
その他	0

4. 栄養教諭免許を取ろうとした理由は何ですか（複数回答）

取れる資格は何でも取ろうと思った	3
食育をしたい	3
教師になりたい	0
子どもにかかわるのが好き	1
管理栄養士の資格だけでは就職に有利でないと 思った	0
就職の選択範囲が増える	3
保護者などから進められた	2
その他	0

5. 1年間、教職に関する科目を受講して、栄養教諭になりたいという思いはどれくらいですか

ぜひなりたい	0
管理栄養士も含めて就職先の1つとなっている	3
なれたらいい	1
免許だけでいい	1
ほとんどない	0
その他	0

6. 5でなれたらいい、免許だけでいい、ほとんどな
いに○をつけた人、その理由は何ですか

栄養教諭に魅力が無い	0
採用試験が厳しい	1
学校現場が厳しい	0
もともと免許取得だけを考えていた	1
管理栄養士のほうがよい	0
その他	0

7. 1年間教職に関する科目を受けてみて、栄養教諭
になるには、どのような能力や資質が必要と考え
ますか（複数回答）

教師としての使命感	2
教師としての責任感	3
人間の成長や発達についての理解	2
子どもに対する愛情	4
教科（栄養学など）に関する専門知識	2
広く豊かな教養	2
豊かな人間性	2
教科指導や生徒指導の能力・技術	4
子どもや保護者とのコミュニケーション能力	5
その他	0

8. 1年間、教職に関する科目を受けてみて、学校教
育に関して、特に深く理解できたことは何ですか
（複数回答）

学校の体制や組織がわかった	3
現在の学校や教師が置かれている立場や役割が理 解できた	4
教師の仕事内容が理解できた	3
授業のすすめ方や、指導案の作成方法が理解できた	4
授業をする楽しさがわかった	1
教育が子どもの人格形成や成長にかかわる重要な 仕事であることが理解できた	6
その他	0

9. 1年間、教職に関する科目を受けてみて、もっと
知りたかったことは何ですか

実際の栄養教諭の授業を見たかった	4
授業の材料をどのようにして立案するか	1

①栄養教諭の免許があることを、いつ知りまし
たか？

に関しては、高校2年が1名、高校3年が2名、
大学入学後が2名となっている。このことは、半
分の学生は高校時代に栄養教諭免許制度を知っ
ており、管理栄養士に関する情報入手とともに、
栄養教諭に関する情報も入手し、管理栄養士とあ
わせて栄養教諭を将来の職業の一つとして考え
ていると思われる。

②栄養教諭免許があることをどのようにして知
りましたか？

に関しては、ネットで調べたが2名、進学説明

会で知ったが1名、大学入学後のガイダンスが2
名となっている。

このことは、高校時代に栄養教諭免許制度があ
ることを知った学生は、自ら進んで自分の進路に
関する情報を入手しており、自らの進路や職業に
関して、積極的に研究を行っていると考えられる。
また大学入学後のガイダンスで知った学生につ
いても、自らの可能性や将来の職業に関する選
択肢を増やそうとする考え方を持っている学生
で、積極的で、前向きな姿勢がうかがえる。

③栄養教諭免許を取りたいと思ったのはいつ
ごろですか？

に関しては、全員が大学入学後に決めており、
大学入学直後に行われているガイダンスにお
いて、この制度を既に知っていた学生も、ガイ
ダンスで初めて知った学生も、ともにその時に
決心しており、ガイダンスが有効に働いてい
ることを示していると考えられる。

④栄養教諭免許を取ろうとした理由は何で
すか？

（なお、この質問に関しては複数回答を可と
した）

に関しては、この質問項目がこのアンケート
の中でも最も重要であり、栄養教諭を目指す
学生に対する指導方法に大きな影響を及ぼす
と考えられる。

多かった回答は、「取れる資格は何でも取
ろうと思った」が3名、「食育をしたいが」3
名、「就職の選択範囲が増えるが」3名、「保
護者などから勧められたが」2名、「子ども
にかかわるのが好きだから」1名となってい
る。

このことから、栄養教諭免許取得の目的は、
将来の職業を考えると、免許や資格を有して
いることが有利であり、職業選択の範囲が増
えることを考慮して、多様な免許や資格を取
得しようとしている学生が多いことを示して
いる。また保護者もそれを勧めていることも
示している。

このことは、栄養教諭免許取得を目指す
主たる理由は、どちらかというと「功利的」理
由であり、「教育愛」は副次的なものとなっ
ていると考えられる。

このような状況であるため、教育学部など
の教職課程選択者のように、「教師になりたい」
と回答し、職業として強く教師を目指す学
生はいないが、何らかの形で食育をしたいと
考える学生が3名と、「子どもにかかわるの
が好きだから」と回答した学生が1名おり、
小学校などでの教育を目指す学生

は多くはないが、何かしらの形で教育に関係したいと考える学生がいることを示している。

この状況は大学入学に際して、食物栄養学科を選択した学生としては当然のことであり、管理栄養士になることを第一義と考えて、食物栄養学科に入学しているのであり、学校教育を目指すために食物栄養学科に入学したのではないからである。

また、筆者が1年間を通し具体的に学校現場の様子や、教師の置かれている立場や、教員採用試験の厳しさなどを詳しく説明したため、栄養教諭への志望が後退したのではないかと考えられる。

しかし、本来持っていた学校教育への思いもあり、小学校で栄養教諭になり食育をしたいと考える学生もおり、ただ単に、将来の職業の選択肢を増やすためだけに受講しているのではなく、管理栄養士と栄養教諭の二兎を追って苦悩しているのが実際のところであると思われる。このような状況であるため、受講生の悩ましい状況を考慮して、3年生での教職科目の授業を実施する必要があると考えられる。

⑤ 1年間、教職に関する授業を受講して、栄養教諭になりたいという思いはどれくらいでしたか？

この質問に対しての回答は、「管理栄養士も含めて就職先の1つとなっている」が3名、「なれたらいい」が1名、「免許だけでいい」が1名となっている。これは④の質問の分析でも述べたように、1年間教職に関する科目を受講した結果、半分の学生は教育職の持つ意味・役割や職業としての教師の魅力を理解し、栄養教諭になれたらいいと考えているが、学校現場の状況や教員採用試験の競争率の高さなど、現実的な厳しさも理解したため、栄養教諭と管理栄養士のどちらを職業とするか躊躇しているのではないかと考えられる。

筆者は長年、学校現場で教諭・教頭・校長として勤務してきたことを加味しながら、「生徒指導」「教育の方法と技術」の講義を実施している。そこでは日々の教室での子どもたちの学習活動に対する様子や、教育活動のおもしろさ・醍醐味・達成感・やりがいなどや、学校に対する保護者の思いや地域との関係など、現在の学校や教員の活動のプラス面・マイナス面を含めた現実的な状況を詳細に述べ、学校や教員のあり方について説明している。

これに対して学生たちは、今まで生徒としてしか学校や教師のことを知らなかったが、立場を変

えて教育活動を実施する側に立って、学校現場の状況や教師の実務について学ぶことにより、職業としての教師の魅力や学校の楽しさ、社会において教育が持つ重要な意味を理解し、できれば栄養教諭になりたいと考えていることを示している。

しかし、現在の教育職や学校の置かれている負の部分の説明や、全国各自治体の栄養教諭採用状況の厳しさの説明も行っているため、栄養教諭になることを断念した学生も出てきている。このことは、栄養教諭免許の取得理由で、「強く教師になりたい」と答えた学生がもともといなかったことに加え、職業として栄養教諭をめざすことよりも、資格を取得することだけや就職の選択肢を増やすことだけに、意識や意欲を後退させているのではないかと考えられる。

これについて、さらに⑥ ⑤の質問で、「なれたらいい」「免許だけでいい」「ほとんどない」に○をつけた人、その理由は何ですか？

と問うと「採用試験が厳しい」「もともと免許取得だけを考えていた」と答えており、栄養教諭になることへの不安や諦めが表されている。

⑦ 1年間、授業を受けてみて、栄養教諭になるには、どのような能力や資質が必要と思いましたか？
(複数回答可)

この質問は教育職や学校に関する本源的な質問であり、教職科目を履修・修得する際の最終的な教育目標でもあり、筆者が最も力を入れて指導してきた事項でもある。そのため、1年間教職に関する授業を実施して、学生の興味・関心・意識がどのように成長・変化したかを知る重要な質問であると考えている。

その結果は、「子どもに対する愛情」が4名で、教育に関する最も基本的な事を理解した学生が多いことを示している。次に「教師としての責任感」が3名で、この場合も教師の活動が、子どもの人格形成にかかわるという重要な職務であり、そのために大きな責任が伴うことを理解したことを意味している。その他、「教師としての使命感」と「人間の成長や発達についての理解」が各2名となっており、教育活動に対する本質をある程度把握したと思われる。

また、当然であるが「教科指導や生徒指導の能力・技術」も4名が選び、教育職にとって重要な項目であると認識している。

さらに、教育はもとより、全ての社会・職業や

人間関係で求められる「子どもや保護者とのコミュニケーション能力」を全員が選んでおり、コミュニケーション能力を高めることの重要性にも気がついている。

一方、「教科（栄養学など）に関する専門知識」や「広く豊かな教養」に関しては各2名となっており、栄養教諭の活動場所が主として小学校であることから考えれば、高度な栄養学などの専門的な知識や教養よりも、小さな子どもに対する愛情のほうが大切であると理解した学生が多いことを示している。

⑧1年間、授業を受けてみて、学校教育に関して、特に深く理解できたことは何ですか？

に関しては、「教育が子どもの人格形成や成長にかかわる重要な仕事であることを理解できた」が最も多く、受講者全員が教育の根幹部についての認識ができたことを示している。

続いて「現在の学校や教師が置かれている立場や役割が理解できた」が選ばれており、一年間を通して学校現場での様々な状況を指導してきたことが適切に理解されている。また、当然のことであるが、「授業のすすめ方や、指導案の作成方法が理解できた」が同数で、教育技術や手法を会得できたと考えられる。

さらに児童・生徒の時にはわからなかった「学校の体制や組織がわかった」と「教師の仕事内容が理解できた」が続いており、「生徒指導」「教育の方法と技術」の教育目標が達成されたと考えられる。

6. まとめと今後の課題

本稿では、管理栄養士の養成を第一義とする食物栄養学科において、栄養教諭を目指す学生の3年生の段階での意識や考えを調査・分析した。

まとめとしては

①栄養教諭を認知した時期は、大学入学前と、入学後がほぼ同数となっている。

②3年生当初において、栄養教諭をめざす理由としては、小学校で受けた食育活動に感銘し、自分も同じ食育をしたいと考える者と、ただ単に就職や職業選択の幅が増えるためと考える者が、ほぼ同数となっている。

③一年間授業を受講した後は、学校現場の状況や採用試験の厳しさなど栄養教諭をめぐる現実を知ったことや、本来栄養教諭になることを第1志望にしていなかったため、多くの受講生の栄養教諭への志望は後退している。

④学校教育や教育職に関する認識や造詣は一年間の授業を通して深化させられている。

⑤今回の調査は、4年生の6月に実施される栄養教育実習を経験する前にとったアンケートであるため、多くの学生が栄養教諭への志望を後退させているが、栄養教育実習後の7月にアンケートを提出した昨年度の受講生全員と面談を実施した結果、栄養教育実習を経験したことで、改めて学校現場で働くことの意義や楽しさ・やりがいを経験し、子どもたちと触れあうことに喜びを感じ、本格的に栄養教諭を目指したいと考える学生が出てきており、一概に栄養教諭志望が後退していると、結論付けることは早計であるとも考えられる。

一方課題としては、

①前述のように、栄養教育実習のもつ意味や効果が大きく、4年生の6月に実施される栄養教育実習後に学校現場で子どもたちと触れ合うことの楽しさや、学校での食育の意義を確認したり、栄養教育実習で指導を受けた栄養教諭の働き方を見て、改めて栄養教諭を目指す学生が出てくる場合があるので、そのような状況に備えて教員採用試験対策などについて、適切な指導を行うシステムを作ることも必要であると考えられる。

②食育の授業を行うにあたって、現職の栄養教諭の授業を見学したかったという要望があるので、学校見学やゲストティーチャーとして招聘するなどの方法を検討する必要がある。

③栄養教諭免許の取得を目指す学生は、食物栄養学科の学生数の1割程度しかない。これは本学の食物栄養学科が管理栄養士の養成機関であるため、入学者全員が管理栄養士をめざしているため、当然のことである。

しかし、管理栄養士養成と並行して、栄養教諭を目指すことが可能であるにもかかわらず、大学入学前に栄養教諭の存在を認知していた者が、

受講者の半分しかいない。この原因は高校段階での栄養教諭の認知度が低いことも一因とも考えられる。そのため、多くの新生は、大学入学直後のガイダンスで初めて栄養教諭免許が取得可能であることを知る場合が多く、その段階で将来の職業として栄養教諭をめざすことに結ぶことは時間的に無理があると考えられる。

このような状況であるため、大学の高校生向けの広報活動に栄養教諭の存在と、本学で栄養教諭免許が取得できることを、高校生によく周知¹²⁾することにより、管理栄養士とともに栄養教諭の認知度も上がり、栄養教諭免許取得を目指す学生が出てくると考えられる。

文献

- 1) 山岸博美 (2014) : 短期大学生における栄養教諭に関する意識調査 富山短期大学紀要 第四十九巻 pp1~7
- 2) 大橋伸次 (2006) : 栄養教諭の意識について 国際学院埼玉短期大学研究紀要 27 pp127~130
- 3) 中島千恵他 (2015) : 短大における教職実践演習 (栄養教諭) の取り組みと効果 京都文教短期大学 研究紀要 53 pp149~160
- 4) 橋本まさ子他 (2007) : 桐生短期大学における栄養教諭養成課程の現状とその課題 桐生短期大学紀要 第18号 pp95~100
- 5) 藪田耕三他 (2008) : 栄養教諭養成のあり方に関する一考察 小田原短期大学 研究紀要 38 pp1~21
- 6) 長尾綾子他 (2013) : 「教職実践演習 (栄養教諭)」の一報告 滋賀短期大学研究紀要 第38号 pp9~18
- 7) 並河新太郎 (2011) : 栄養教諭養成にかかる栄養教育実習の現状と課題 相愛大学研究論集 27 pp127~141
- 8) 上田秀樹他 (2009) : 栄養教諭制度における栄養教育実習の現状と課題 大阪樟蔭女子大学論集 第46号 pp63~76
- 9) 上村芳枝他 (2015) : 栄養教育実習 比治山短期大学教職課程研究 1 pp133~142
- 10) 田中雅章他 (2009) : 栄養教育・指導技法修得の改善 鈴鹿短期大学紀要 29 pp75~82
- 11) 山岸博美 (2014) : 前掲書1) pp3
- 12) 拙稿 (2015) : 食物栄養学科の教職科目「生